

# 足田舟川用水

足田舟川用水は、福井県の中央に位置する敦賀市の南、滋賀県にとの県境近くに位置する足田地区を流れる農業用水で、滋賀県境を水源とする五位川から取水し、足田集落を流下し、水路沿岸および下流地域の農地をかんがいしています。

この足田舟川用水の歴史は深く、大浦～中村間(現滋賀県伊香郡西浅井町大浦～西浅井町中)に川舟を通すことを陳情し、約 200 年前(文化 12 年(1815 年))に幕府は小浜藩と協議して、敦賀～足田間に舟川を開削し、足田から山中までの道路を改修しました。



以後、天保 5 年(1834 年)までの約 20 年間、この舟川を活用して北国筋の城米が多く大浦へ運ばれました。

当時この舟川は、水の流れが速いため、水位が上がらず、積荷を満載すると舟底がつかえるので、川底に胴木(どうぎ)を敷設して、舟の上りを滑らかにする工夫がなされていました。

平成 9 年～16 年には、老朽化した護岸の機能改善を図る整備を行いました。右岸の石積みは当時のまま残されており、当時の面影を残しています。

現在の足田舟川用水は、約 8ha の農地のかんがいとともに、足田地区の防火用水および生活洗浄用水としても利用されています。

